事業完了報告書

提出日：2023 年 3 月 10 日

1．事業概要

（1）実行団体名：特定非営利活動法人スイスイ・すていしょん
（2）事業名　：子ども・若者を育む地域創造事業
（3）事業実施期間：2019 年 4 月 1 日～2023 年 2 月 28 日
（4）資金分配団体名：一般財団法人 大阪府地域支援人権金融公社

2. 規程類の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1） 事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。 （2）
☑ 完了　／　☐ 整備中
→上記で「整備中」を選択した場合、整備できていない理由を記載してください。また、事業開始時と比較して、整備状況が改善された点を記載してください。
（2） 整備が完了した規程類を自団体の web サイト上で広く一般公開していますか。
☒ 全て公開した　／　☐ 一部未公開　／　☐ 未公開
→上記で「一部未公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。
（3） 変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☐ 変更があり報告済　／　☐ 変更があったが未報告　／　☑ 変更はなかった
→上記で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。

3. ガバナンス・コンプライアンス体制の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1） 社員総会または評議員会、理事会は、規程類の定めるとおりに開催されていますか。
☑ はい　／　☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（2） 内部通報制度は整備されていますか。
☑ はい　／　☑ いいえ

→上記で「はい」を選択した場合、設置方法を以下から選んでください。（複数選択可） ☐　内部に窓口を設置 ／　☐　外部に窓口を設置 ／　☑　JANPIA の窓口を利用
（3）　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑　はい　／　☐　いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（4）　関連する規程類や資金提供契約の定めるとおりに情報公開を行っていますか。
☑　はい　／　☐　いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（5）　コンプライアンス責任者を設置していましたか。
☑　はい　／　☐　いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（6）　ガバナンス・コンプライアンス体制の整備や強化施策を検討・実施しましたか。
☑　はい　／　☐　いいえ
→【任意】上記で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。 毎月１回開催する事務局会議において、前月の収支状況や事業の進捗、事業計画、リスクマネジメント等をスタッフ５人以上で検討及び確認し、定期的な理事会等で報告を行うことによって独善的な行動や不正、想定外の事象が起きないよう進めてきました。
（7）　報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。（実施予定の場合を含む）
☐　外部監査　／☑　内部監査　／　☐　実施予定もない　※（複数選択可）
→上記で「外部監査」または「内部監査」を選択した場合、その実施者を記載してください。 内部監査：西岡成美・萩山理恵
（8）　本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。
☐　はい ／　☑　いいえ

4. 広報実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、設問に回答してください。

（1）シンボルマークの活用状況	
☑　自団体のウェブサイトで表示している	／　☑　広報制作物に表示している
☑　報告書に表示している	／　☑　イベント実施時に表示している

☑　その他
→「その他」を選択した場合は記載してください
（自由記述）：購入した備品（倉庫、PC、テントなど）やイベント参加者への配布物に貼付

最終年度の広報実績について記載してください。

広報種類	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）	有	団体 Web ページに活動状況報告 blog をリンク
広報制作物等	有	イベント開催毎に作成 （スイスイ子ども食堂・地蔵盆・CAP プログラム等）
報告書等	有	活動報告書兼評価報告書

5. その他（本助成を通じて組織として強化された事項や新たに認識した課題、今後の対応/あればよいと思う支援や改善を求めたい事項など、自由にご記載ください。）

組織強化
・スタッフがオンライン会議などに対応できるスキルが身についた
・規定類の整備の強化につながった
・会計ソフトの導入及び会計士の指導による会計スキルの向上
・他団体の取り組みを知ることによる新たな発想の取込み
・社会的インパクトを意識した取り組みの展開から支援者の増加

新たに認識した課題
・専従者がいないため事務作業に取り組む時間の確保が難しい
・スタッフとして関わりたいと感じている潜在的なニーズをキャッチしたが、そのニーズを活かすための工夫が必要
・参加費や親の承諾が必要なイベントへ申し込むにあたって、家庭環境に課題のある子どもは保護者に希望を伝え辛い

今後の対応/あればよいと思う支援
・必要に応じた会計指導
・ボランティアをうまく巻き込むためのスキルアップ

改善を求めたい事項
・助成システムの簡素化
・事務作業の簡素化

【添付資料】

活動の様子がわかる写真　５枚程度

〇みかん狩り体験の一コマ

快晴のなか普段とは違った広大な広場で走ったり、遊んだり、みかんを食べたり、BBQ をして過ごしました。

普段、遠出が難しい世帯の子ども達も参加し「また来たい」との声や不登校児童や生徒の親から「久しぶりに外で楽しむ姿を見ることができた」と喜びの声が聞かれました。

〇子ども食堂の一コマ

毎回８０人近い子ども達が訪れます。参加に条件を設けないことによって課題のある世帯の子どもも参加がしやすい環境づくりをしています。

また、感染症対策の観点からテイクアウト方式を取り入れたことによってヤングケアラー世帯とつながることができサポート体制を構築できました。

〇ボランティアのメンバー

子ども食堂でテイクアウトの準備が完了した様子。子ども食堂に訪れる子ども一人ひとりに声をかけ、いつもの様子と変わりないか気にかけることから、課題のある世帯の発見に努めています。

〇木工工作体験の一コマ

難しい工具や機会を使いながらお箸を作りました。その過程でわからない人は尋ね、わかる人はサポートするなど協力し合う様子が見られました。

〇バルーンアート教室

　子ども達が大好きな風船を使った学習会です。細長い風船をひねって留めて目的の作品を作ります。適度な空気量の調整やひねる頻度など難しさを感じながらも根気よく取り組み完成品を仕上げました。